

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2023年2・3・4月号

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第629号

アカデミー運動は戦後、「はなしあい」により、対立や分断を克服し、共生する世界を目指す運動として、ドイツとスイスのキリスト者によって誕生しました。教会が戦争を止めることが出来なかったことへの反省に基づき誕生した世界教会協議会(WCC)の生い立ちとよく似ています。国家と国家の対立や分断に対して、教会や市民は何ができるのか。今後のアカデミー運動の方向性を考える時、重要な問いであると思われる。現在の世界は、アカデミー運動が誕生した時の状況以上に、戦争の文化と平和の文化が、拮抗し、せめぎ合っているような気がします。

最近、顔と顔の見える関係、市民レベルの和解の実例として興味深い数字が目がとまりました。内容はドイツとフランスの青年交流に関してです。戦後のヨーロッパ統合を牽引したのはドイツとフランスの関係であったことはよく知られています。その基礎となったのが1963年の独仏協力条約(エリゼ条約)でした。ドイツとフランスの平和と和解を促進するために、この条約に基づき様々な事業が展開されました。その中で

最も成功したといわれるのが青少年交流事業でした。13歳から30歳までの若い世代の交流プログラムです。2013年、エリゼ条約50周年に、報告書が出ました。報告書によると、この青少年交流事業に参加した人が50年間で約800万人いたとのことです。年間で16万人の若者が独・仏、どちらかの国に一定

期間滞在しながら、直接の交流体験をしたことになりました。独仏各界の指導層の多くの人がこの交流プログラムの参加経験者とのこと。ドイツとフランスの人口は合計で約1億5000万人になります。日本と韓国の人口を合わせると、約1億7000万人、日本と北朝鮮の人口合計

## 「これからのアカデミー運動に向けて」



財団評議員 関西運営委員  
山本 俊正

は約1億4000万人で、ほぼ同じ規模になります。もし日韓、日朝の間で、同じ交流事業が実施されれば、独仏間同様、年間約16万人の若者が交流をする計算になります。朝鮮半島と日本の関係や相互の認識も大きく変わるに違いありません。さらにこの数字

て向き合い、相手を尊重し、相互に理解しようとするべく作業です。戦争は「はなしあい」が途絶えたところから始まります。現在、日韓関係は戦後最悪と言われます。中国、北朝鮮とは緊張関係が続きます。関西セミナーハウスは、宿泊が可能です。1年に何回か、1週間、1ヶ月、または、半年、1年間のプログラムとして、北東アジアの人たちが、少人数でもよいので寝食を共にし、祈りを共にしながら、「平和・正義・和解」などをテーマに「はなしあい」、学びと経験交流のプログラムができると思暗らしいと思います。

様々な領域で顔の見える関係が構築され、蓄積されていくことが、遠回りのように見えて、「平和と和解」への近道です。これからのアカデミー運動の一つの可能性として、北東アジアからの参加者による宿泊を伴う対面プログラムを企画したいと願っています。

(元関西学院大学教授)

に中国を加えると、人口の合計は15億を超え、10倍の年間160万人の交流になります。言語や文化を相互に学ぶことによって「異質な他者」への「恐れ」が軽減されます。人と人との出会い、対話「はなしあい」は、アカデミー運動の1丁目1番地です。「はなしあい」とは、はじめは「理解できない」と思っていた人々と、1人の個が人間とし

昨年10月7〜8日に開催された「シユペネマン記念集会」での発題を再構成していただきました。

関東活動センター

●2022年度 関東フォーラム「宗教対話」II  
(連続講座)  
「キリスト教文学に学ぶ」  
(共催・早稲田奉仕園)

講師 文芸評論家 柴崎 聰さん

2022年4月～2023年3月第3水曜  
(8月12月除く、全10回)  
Zoomによるオンライン開講



講座の第一回で、先ず「キリスト教文学とは何か」と問いを立て、諸氏の見解を紹介した上で、柴崎聰講師は「日本においては、という条件付きではあるが、キリスト教徒の文学だけでなく、キリスト教徒でない文学者であつても、その文学的営為の根拠に、キリスト教や聖書を置き、そこからメッセージに促されて発信する文学」と規定する。そこから、取り上げる各著者の紹介、その作品の全体構成、語り手の確定、登場人物、重

要表現の検討、主題の吟味が展開される。

具体的には、例えば井上ひさしの『父と暮らせば』、遠藤周作の『侍』、山本周五郎の『柳橋物語』、芥川龍之介の『南京の基督』、『奉教人の死』、山村暮鳥、八木重吉の詩、大岡昇平の『野火』、三浦綾子の『水点』などが、次々に取り上げられる。その解説は詳細を究め、特に講師の注目する「比喩」表現についての分析は圧巻！ 2時間の講義があつという間に過ぎてゆく。ずっと昔に読んで、分つたつもりでいた諸作品が、新しい光彩を帯びて立ち上がり、改めてその創作の背景や秘密に迫ることができる。

毎回、よく準備された綿密な講義録が配布され、それをもとに重厚な講義が展開され

るが、全面リモート開講の故なのか、あるいは宣伝不足もあつて受講者が二〇名前後と少ないのが残念。この講座は、

来年度も少し形を変えて継続されるそうなので、是非多くの受講者を期待している。  
(戒能信生)

●2022年度 関東フォーラム「宗教対話」III  
(連続講座)  
「超人門！西洋美術史—キリスト教を中心として—」  
(共催・早稲田奉仕園)

講師 山梨県立美術館学芸員 太田 智子さん

2022年5・7・8・10・11月～2023年1・2月(全7回)  
Zoomによるオンライン開講

講座、パンフレットの「…西洋美術史の流れを辿りながら、…作品の旅を楽しんで…」という言葉に惹かれ受講いたしました。

「盛期ルネッサンス」の回は、ダヴィンチ・ラファエロ・ミケランジェロが中心。ミケランジェロについては、三人が共に活躍した時代と、長寿でその後に生み出した作品とに分けて紹介されたのが、新しい見方で印象に残りました。

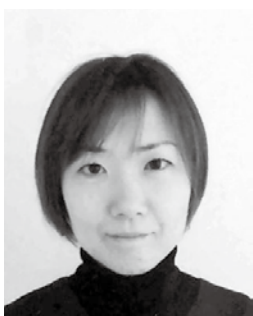
初回は、4世紀に発展したキリスト教美術の土台ともなった古代ギリシア美術から。たくさん画像に加え、太田講師ご自身が実際にご覧になった時の写真や印象、そして豊かな知識をもとに、絵画を見る時のポイントはもち

それに続く、アルプス以北に伝わり、独自の展開をした「北方ルネッサンス」の回では、初めて出会う作品がほとんどで興味深く拝見いたしました。特に、パネルを開いて別の絵画や木彫を見せるリーメンシュナイダーの「マリアの祭壇」やグリューネヴァールの

トの「イーゼンハイムの祭壇」には、とても魅せられました。日本寺院のお前立の後に秘仏のご本尊があり、そのご本尊は特別の時にしか開かれなると同じような扱いをされているとお話になり、いつか実際に見てみたいと思いたしました。

Zoom 講座のいいところは、講師の指摘された箇所を、手元で拡大して確認できることや、気になったところをビデオでもう一度見直せること。

残りの回も楽しみにしております。  
(神保信子)



2023年度プログラムにも、どうぞご期待ください。



関西セミナーハウス活動センター

●2022年度 修学院フォーラム「いのち」第2回  
「人類と福祉—その淵源を探る—」

講師 古代オリエント博物館館長 月本 昭男さん  
2022年9月23日(金)祝日24日(土)  
関西セミナーハウス



このフォーラムは、コロナ感染症の広がりのために2020年10月に関西セミナーハウスが閉じられて以来初めての、宿泊を伴う修学院フォーラムである。秋には、このようなフォーラムを開催できることを願って、講師にその旨を伝えて1月から準備してきた。休業中に進行していた施設の故障箇所も、多くの人の寄付により修復を終え、今日の日を迎えた。コロナ感染症は、未だ完全に収まったとは言えないが、36名の人が集まって、準備した23の宿泊室は満室になった。

正義、平和、いのちが重んじられる社会の実現を目指す関西セミナーハウス活動センターに再び灯がともった。講師の月本さんは、この日のために「人類と福祉—その淵源を探る—」という題を選んで、3回の講演を準備下さった。

月本さんは、「人類は、古来相手を抹殺する暴力や戦争を繰り返してきたが、一方で、弱い立場の仲間を保護する社会を作り上げようとしてきた。人類は、いつから、何ゆえに弱い立場の仲間を大切にしようとしてきたのか」と問い、先史時代の「福祉」の痕跡を紹介し、弱い立場の人を保護することは、その跡を50万年前までも遡ることができ、動物に見られない人類固有の現象だとされた。

古代メソポタミアの弱者保護の伝統は、旧約聖書の社会法に受け継がれた。モーセ律

法は、孤児と寡婦の保護を命じるが、申命記はこれに寄留者の保護を加えた。イスラエルは、自らを寄留者として理解した。全世界を支配する絶対の神が、弱く小さな民を守られるので、この神を信じる民は神に倣わなければならない、と勧められた。この弱者保護の思想を実践的課題として受け継いだのがイエス・キリストであった。彼は「あなたの隣人を自分のように愛しなさい」と勧めた。それが近代の社会の福祉思想に継承さ

れた。日本の社会福祉を推し進めたのもキリスト者であった。明治のキリスト者は「良心」を強調した。「良心」は、同情、共感と深く関わる人間の内的働きで、社会的弱者を保護する人間らしさの発露である。これは、神が人間に与えて下さった心の輝きである。ここに福祉の淵源がある、と月本さんは結ばれた。心を豊かにされる会であった。これらの講演は、後日希望者にYoutube配信される。

●2022年度「開発教育セミナー」第4回  
「『食べること』を世界の真ん中において、世界のあり方を根源から見直す」

講師 京都大学人文科学研究所 藤原 辰史さん  
2022年10月15日(土)  
京都市国際交流会館



コロナ禍で、ウクライナ侵攻で、食料の入手が困難にな

る中、人権としての食を考えた。参加者は、給食で脱脂粉乳を飲んでいた人を含めて幅広く広がったが、4人グループに分かれて講師の話聞き、語り合う形で進化した。

藤原さんは、第一次世界大戦の敗戦でドイツには76万人(うち子ども30万)の餓死者が生まれ、さらに世界恐慌で飢

餓への恐怖が広がったことがナチスの台頭を招いたという。ヒトラーは人々を飢えさせないと訴え、農産物の国産化を奨励した。しかしスラブ人やユダヤ人への食糧配給は大幅に下げた。このような食糧力(国家や企業が食を通じて自然と人を統治する権力のネットワーク)は、現在のフードシステムにも見られる。一方で藤原さんは、給食の可能性をあげた。現在各地に子ども食堂が誕生しているが、困っている家庭に届かない、行きづらい、資金が続かないなどの課題がある。藤原さんは「縁食」を提唱する。だれもが立ち寄ってご飯を食べられる場。たとえば無料食堂や無料冷蔵庫。子どもの居場所と連動した地域食堂。さらには飲み食い自由のイベントや、公園で薪ストーブを囲んで食べる芸術活動などが紹介された。このような様々な試みが折り重なって、皆が食べていける社会が実現していくのだと思えた。







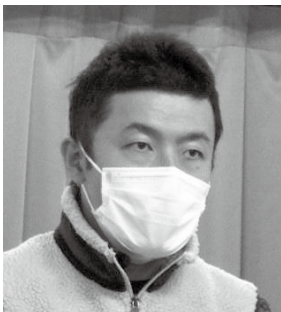


の問題が英語圏ではキリスト教と結びついている現実があり、その中から抵抗の理論としてクイア神学が生まれたこと、すなわち社会的に力をもち続けたキリスト教の異性愛規範がこの問題の基礎にあり、それが問われていることが示された。そしてこの伝統的なキリスト教の規範が、イエスの出来事に遭遇するなかで克服されるものであることが示唆された。同時に日本のキリスト教会も、伝統や権力構造からは自由でなく、その中で問い続けることの大切さが述べられた。

性差別の問題を通して、日本を含めたキリスト教の実態を顧み、それを反省しつつ、キリスト教の本質に立ち帰ることの必要性を切実に感じ、考えさせられた機会であった。闊達な意見交換も行われ、相互に刺激が与えられたよき



交流のときでもあった。もっとも、この問題に対する神学的基礎づけは今後の課題であることも確認でき、これからの活動がさらに期待されるものである。



第1セッションでは気候変動の現状について伺った。この170年間の急激な気温上昇は、化石燃料を燃やし続ける人類の活動を疑う余地はない。平均気温を15℃に抑えるために残された炭素予算(カーボンバジェット)はあと10年だ。

先進国が大量に温室効果ガスを排出し豊かさを享受する一方で、排出量が少ない途上国が被害を受けている。これは「時間差殺人」「遠隔殺人」と呼べるのではないか。気候変動が既に世界が抱えている平和や人権などに対する脅威

●2022年度「開発教育セミナー」第6回  
 「気候危機から目をそらさない！」  
 ～待ったなしの10年へ歩み出すときは今～  
 講師 国際環境NGO 伊与田昌慶さん  
 30.org Japan  
 2022年12月10日(土)～11日(日)  
 関西セミナーハウス

を拡大する「脅威乗数(threat multiplier)」の考え方や、気候危機を見える化するイベントアトリビュション(EA)の紹介もあった。

第2セッションでは11月のCOP27の最新情報を伝えてもらった。気候変動に起因する途上国の「損失と被害」の基金設立合意は歴史的な転換だ。また、途上国側から化石燃料不拡散条約の要請もあつ

た。しかし、日本は3回連続で化石賞を受賞し、加えて東アフリカ原油パイプラインに融資しようとする日本の金融機関がNGOから批判対象となった

第3セッションでは、コンセントの向こう側を変える(エネルギーの脱炭素化)ための取り組みを教えていただき、各自でアクションプランを立てた。高校生の「市長に学校の電力会社を変えるように伝える」案に対し、「プレスリリースして広めることも大事」などの意見も出て、各自が明日からできることをしようという気持ちを抱くことができた。

〈協力プログラム〉  
**「金属労協 第53回労働リーダーシップコース」**  
 主催：全日本金属産業労働組合協議会(JCM)  
 2022年10月13日(木)～29日(土)  
 関西セミナーハウス

金属労協傘下の産別、単組などから中堅役員21名(内、女性4名)が参加し、2週間半の日程を通して、研鑽と交流を深めた。労働運動関連の講義の間には、鞍馬山散策、お茶室体験などの時間も

生まれ、特別講演には、タカラバイオ株式会社 仲尾功一代表取締役社長が招かれた。COVID19感染防止対策の制約のある中、各々協力して、全日程を無事に修了した。

プログラム案内

◆関東活動センター

■2022年度 聖書を読む講座II (共催:早稲田奉仕園)

「マルコ福音書をジックリと読む」第5期

講師:山口 里子さん(聖書学者) 日時:4月~2023年2月(8月休)

第2火曜18:30~20:00 参加費:全10回8,000円(学生4,000円)

方法:Zoomによるオンライン講座

■2022年度 宗教対話II (共催:早稲田奉仕園)

連続講座「キリスト教文学に学ぶ」I 講師:柴崎總さん(文芸評論家)

日時:4月~2023年3月(8,12月休) 第3水曜

参加費:全10回8,000円(学生4,000円) 方法:Zoomによるオンライン講座

■2022年度 宗教対話III (共催:早稲田奉仕園)

連続講座「超入門」西洋美術史一キリスト教を中心として一

講師:太田智子さん(山梨県立美術館学芸員)

日時:5月、7月、8月、10月、11月、2023年1月、2月、最終月曜 13:00~15:00

参加費:全7回6,000円 方法:Zoomによるオンライン講座

◆関西セミナーハウス活動センター

財団本部 http://www.academy-nippon.com 関東活動センター http://www.academy-tokyo.com 関西セミナーハウス http://www.kansai-seminarhouse.com/ 関西セミナーハウス活動センター http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本キリストチャン・アカデミー 代表理事 中村 信博 本部事務局 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256 関東活動センター 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館1F TEL 03-3207-6198 E-mail:info@academy-tokyo.com 関西セミナーハウス/ 関西セミナーハウス活動センター 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 TEL 075-711-2115 E-mail:info@kansai-seminarhouse.com 関西セミナーハウス活動センター 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 TEL 075-711-2117 E-mail:office@academy-kansai.org

■2022年度修学院フォーラム「福祉」

第3回「生きづらさの声を聴くーコロナ禍の子ども・若者の権利侵害」(共催)京都YWCA

講師:長瀬 正子さん(佛教大学 社会福祉学部准教授)

日時:1月28日(土)13:30~16:30 参加費:1,000円 学生500円

方法:会場 京都YWCAとZoom併用

第4回「東九条子ども食堂の試みから」 講師:許 伯基さん(前在日大韓基 督教会京都南部教会牧師)

日時:3月18日(土)13:30~15:50 参加費:1,500円 学生500円

方法:会場 関西セミナーハウスと Zoom併用

◇新刊案内

身近なことから世界と私を 考える授業III

「自分ごと」として学ぶ17ゴール



SDGs 実践教材集

開発教育研究会著

(明石書店刊)

2022年12月30日発行

1900円(税別)

◎お求めは、関西セミナーハウス 活動センターまで

賛助会費・寄付金報告

2022年10月1日~12月31日 (順不同・敬称略)

◆財団本部

日本キリストチャン・アカデミー 再興のための募金(寄付)

日立造船労働組合

鳥井 清司

林 宗一郎

松野 浩行

森 ユキエ

JFEスチール労働組合

中村 信博

戒能 信生

株式会社三原工務店

市川 克彦

石若 義雄

牛尾 宣夫

匿名

武藤 高司

大角 洋子

株式会社ニチエー京都

西谷 直子

京都みぎわキリスト教会

◆関東活動センター

賛助会費

根津 建

立原 敬一

竹中 百合子

島田 治夫

吉田 博

寄付

条谷 泉

川畑 泰

濱田 ひろみ

許 昌範

増田 博

齊藤 潤

石川 憲彦

萩原 好子

神学生プログラム寄付

根津 建

関田 寛雄

川北 かおり

学校法人西南学院キリスト

教活動支援課

小久保 正

久保田 愛策

外谷 悦夫

松井 直樹

竹中 百合子

島田 治夫

吉田 博

東矢 高明

江口 忍

松下 起子

戒能 信生

萩原 好子

島田 恒

クリスマス寄付

中井 博雅

河原田 美哉子

松下 起子

小林 誠治

飯田 庸子

恵泉女学園中高・宗教部

日本基督教団鹿児島加治屋

町教会

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費

黒田 睦子

高寺 幸子

古賀 暢子

金山 顕子

中上 和子

樋口 よう子

菅 恒敏

白方 誠彌

寄付

匿名

家形 日出

和田野 勢津子

月本 昭男

村上 みか

柳井 一朗

杉本 尚司

クリスマス寄付

大門 義和

小久保 正

荒井 加代子

中村 信博

浦 晴子

多田出 加代子

柴橋 美穂

武山 泰子

宮本 桂子

岩坂 二規・泰子

今川 泰彦

北風 照子

林 律

山本 俊正

竹中 百合子

藤田 恭子

鳥井 清司

堤 龍春

川北 かおり

多木 秀雄

藤田 敦子

真鍋 裕子

延原 正海

坂口 みどり

吉田 力

根岸 宏邦

丸山 まり子

小崎 真

日本キリスト教会吉田教会

井田 光昭

菅原 幸子

斉藤 洋子

脇坂 照世

日野 多栄子

島田 恒

田中 義信

伊藤 正子

以上感謝をもってご報告申し上げます。